

## 黒部川河口域流木裏の無脊椎動物

布村 昇  
富山市科学文化センター

## Some Invertebrates found under the Brushwood or Driftwood, of the Mouth of Kurobe River

Noboru Nunomura

河口域には上流から流された流木や柴が流れている。その下は適当な湿り気と、鳥や両生類などの捕食から免れやすいので、いくつかの生物が生息していることが考えられる。本県では從来このような調査がされたことが無いので、黒部川河口左岸において予備的に行った。

調査は2003年12月15日に調査を行った。なお、1日だけの予備的な調査なので、今後、他の季節の調査も必要である。なお、多足類は獨協医科大学の石井清氏、千葉県立千葉高等学校クモ類は浅間茂氏に同定していただいた。厚く御礼申し上げる。

## 調査結果

軟体動物 Mollusca

腹足綱 Gastropoda

ウスカワマイマイ *Acusta despecta* (Sowerby, 1839) 1個体ナメクジ *Philomyces (Incilaria) bilineatus* (Bebson, 1842) 1個体コウラナメクジ *Limax flavus* Linne, 1758

節足動物 Arthropoda

甲殻綱 Crustacea

ニホンヒメナムシ *Ligidium japonicum* Verhoeff, 1918 2個体ワラジムシ *Porcellio scaber* Latreille, 1804 2個体

黒部川河口左岸の流木

## クモ綱 Arachnida

*Pardosa astrigera* L.Koch 1878 ウヅキコモリグモ 雌亜成体3個体、雄亜成体3個体*Clubiona* sp. フクログモの一種幼体

## ヤスデ綱 Diplopoda

ヒガシオビヤスデ *Epanerchodus orientalis* Attems, 1901

♂4 ♀4

トワダオビヤスデ *Epanerchodus towadaensis* Shinohara, 1957

♂1



黒部川河口左岸の流木

## ウガンダ旅行記

平内 好子  
新川みどり野高等学校 〒937-0011 富山県魚津市木下新144

## Trip to Uganda

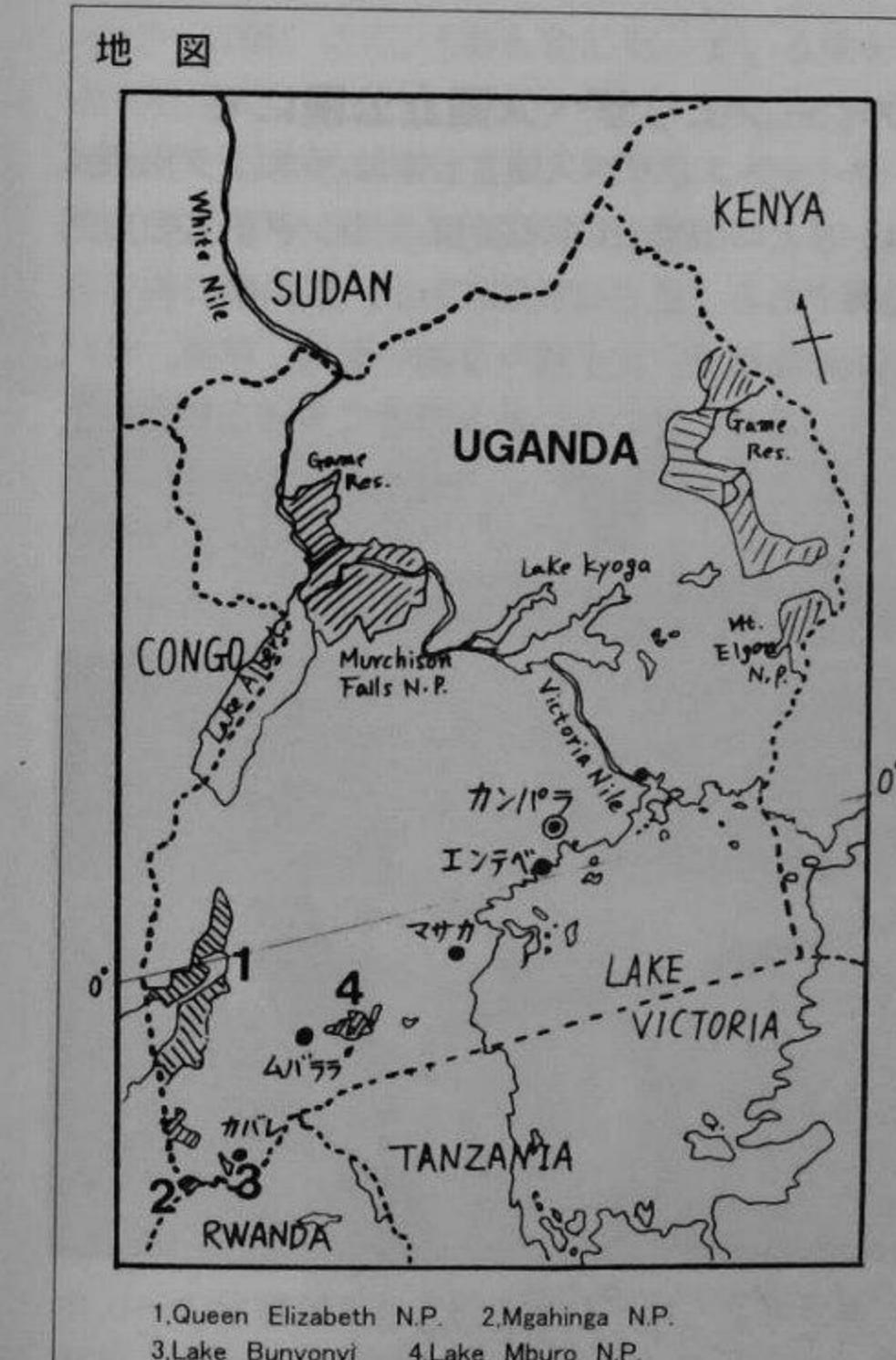
Yoshiko Hirauchi  
Niikawamidorino High School, 144 Kinoshitashin, Uozu-shi, Toyama 937-0011, Japan

2003年12月19日午後2時50分、ウガンダのエンテベ空港に到着。前日の午前10時過ぎに家を出ているから、なんと1日半がかりでアフリカのど真ん中に着いたのだ。途中、ドバイで乗り換え、ケニアのナイロビを経由してきた。中東からケニアまでは茶色い大地が延々と続いていたのに、上空から眺めるウガンダは緑一色で、その対照にまず驚いた。家と道以外は畑か草原、森林のいずれかに被われているという緑の美しい国であった。

どうして、突然ウガンダに行ったかといふと、二女が青年海外協力隊員として昨年から2年間の任務でウガンダに行っているので、この機会にアフリカへぜひ行ってみたいと思ったからである。回りに声をかけると5人も集まつた。新川地区の生物の先生が4人と長女である。というわけで、9泊10日（機内2泊含む）のアフリカ・ウガンダの旅が始まった。

## エンテベにて

空港に着いた途端、激しいスコールに遭った。この時期は小雨期にあたるそうだが、久しぶりの雨のことだった。最初の夜は、最高級ホテルのレストランでの夕食となった。ピクトリア湖で捕れるテラピアという白身魚はなかなかおいしく、日本人好みであった。聞けば、これともう一種類ナイルバーチという魚はたくさん日本に輸出されているそうだ。かねてより娘が絶賛していたナイルスペシャルという現地のビールで乾杯。ちな



アンコレカウという角の長いヤギがたくさん飼われている